



全難聴耳マークだより

一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
耳マーク部 発行 2019年6月15日



耳マーク

全国の会員のみなさま、こんにちは。全難聴の「耳マークだより」をお届けします。2018年11月に山口県で開催した「第24回全国中途失聴者・難聴者福祉大会」第2分科会「耳マークに関する疑問に答えます～耳マーク井戸端会議～」を耳マーク部で担当しました。この第2分科会に参加された方から、耳マーク部がどんな活動をしているのか、どのような部員が活動しているのか知りたい、という声が出ていました。耳マーク部を身近に感じて、地域の活動に活かしていただきたいとの思いで、このたよりを発行いたします。

耳マークが昭和50年に制定されて45年が経ちました。元号が「令和」に変わったのを機に、耳マークの歴史を事務局の耳マーク担当職員さんがまとめて全難聴のホームページにアップされました。そちらもご活用ください。(アクセス方法は最終ページに記載)

さて、「耳マークを取り巻く環境」ならびに「2018年度の耳マーク部事業の総括」をお知らせします。

◆耳マークを取り巻く環境（全難聴事務局総括）

「ヘルプマーク」や2020東京オリンピック・パラリンピック開催に向けていくつかの案内図記号(ピクトグラム)の新規制定があり、各種のマーク利用を巡っての現在の状況は、非常に混乱している。また、ろうあ連盟が作成した「手話マーク・筆談マーク」の普及運動もあり、「耳マーク」を取り巻く環境は、非常に厳しい状況にある。そのような中、「耳マーク部」を中心とする全難聴、または地域協会の活動の成果で、「聴覚障害を表すシンボルマークとしての耳マーク」は着実に社会に普及している。全難聴としては、聴覚障害を表す「耳マーク」の意義を何度も振り返り、「耳マーク」の普及が共生社会実現の一助となることを確信して、普及活動をより一層活性化していきたい。

◆2018年度耳マーク部事業総括



- ①関連行事(聞こえのフェスティバル、全難聴福祉大会、補聴器フォーラム等)の場を活用して耳マークグッズの販売やパネルの展示を行い、耳マークやヒアリングループマークの普及啓発につなげた。
- ②耳マーク利用申請や外部からの問い合わせに事務局や他専門部と連携して対応した。
- ③全難聴機関誌「難聴者の明日」の耳マークのページの執筆を担当した。(部員輪番制)

ヒアリングループマーク

- ④部員メーリングリストで、相談・意見交換を活発におこなった。
- ⑤よりよい情報発信を目指して「全難聴公式LINE」や耳マークキャラクターについて、理事会に挙げることも含め、部内で協議を重ねた。

- ⑥【番外編1】地域により放送日は異なるが、地上波のテレビコマーシャル「ACジャパン」（公共広告機構）で、内部障害者マーク・ヘルプマークと共に、「耳マーク」が紹介された。
- ⑦【番外編2】薬師寺みちよ参議院議員が国会中継予算委員会でヒアリンググループ等について質疑するにあたり全難聴がサポートをおこなった。

耳マークグッズ アイディアあれこれ

耳マークグッズとして全難聴でも頒布している耳マーク掲示板について、配慮してほしい具体的内容を裏面に記載した掲示板を作成している協会さんがあります。

【求める具体的配慮例】を紹介します。

- 呼ぶときはそばへ来て合図をしてください。
 - マスクを外して、口元を見せてゆっくり話をしてください。
 - 感染症等の対応のためマスクを外せない場合は、筆談をしてください。
 - 通じていないときや、日時、会計など大切なことは、必ず筆談でお願いします。
 - ときには、身振りなども使って伝える工夫をしてください。
 - 補聴器装用者には、普段の声の大きさをゆっくりはっきりと話してください。
- など。

また、耳マーク部内では、耳マークシールを蛍光塗料仕立てにして、タスキや腕章などに貼りつけ、夜間の注意喚起に役立ててはどうかとの提案もありました。難聴者自身のご自分のために耳マークを採り入れたグッズを作成するのは自由ですが、それを販売して利益を得るような場合は、全難聴に耳マーク利用申請を行ってください。

多彩な顔ぶれの耳マーク部員を紹介します

敬称略・順不同

◆荒川清美（名古屋市）←耳マーク部長経験者。現在、耳マーク部副部長



難聴者活動に関わって早30何年、時代の流れとともに、私生活も身障者活動も大きく変わっていく様子を肌で感じてきました。難聴者の生活は、ICTとともに大きく変わり、より情報が取りやすい環境に変わってきています。健聴者と同じように音声情報を取り入れる手段も、使い方次第でできる可能性もいくつか見えてきています。あとは、当事者側の積極性次第です。まずは耳マークの意味を正しく知り、上手に使いましょう。

進行性難聴の娘と健聴の娘と娘二人をもつ母です。娘と共に人工内耳装用しています。どうぞよろしくお願ひいたします。

◆照井貴久（秋田県）←耳マーク部長経験者



簡単に自己紹介をさせていただきます。年齢は44歳で、星座はてんびん座、血液型はA型です。趣味は野球観戦です。秋田の高校野球（そういえば、昨年の夏、金足農業高校が甲子園で準優勝しましたね。ご声援ありがとうございました。）とソフトバンクホークスのファンです。

仕事は障害者雇用で損保ジャパン日本興亜に勤務し、全国の支店に耳マークの設置、自動車保険の事故対応に手話導入のサービスをやっております。

我が協会は平成14年7月28日に設立し、17年目を迎えました。協会の経歴は初代会長を6年、副会長を11年、全難聴の耳マーク部長を5年やっていました。いろいろなところに耳マークが設置され、私達、難聴者・中途失聴者の社会参加が少しずつ良くなりつつあります。これも協会活動の先輩達のおかげだと感謝しています。

それと余談ですが、認定補聴器技能者の資格取得へ向けてチャレンジしたいと思います。何かアドバイスがあったら宜しくお願ひいたします。

◆三好昭博（函館市）



左記イラストは、むか～し子供が小学生の時、要約筆記のロール紙に書いてくれた似顔絵です。人工内耳のケーブルや眉毛の太さ、額の広さ（頭髪の砂漠化傾向）等、結構特徴を捉えて描いてくれています。実物はもう少し貧相な人相です。

10代後半から難聴となり、20代始めにはほぼ両耳失聴という典型的な中途失聴です。人工内耳での言葉の聞き取りもイマイチなので、文字でのコミュニケーションが主になっています。

耳マークは100円ショップ等で販売されている保険証入れに耳マークカードが見えるように入れて使用したりしていますが、最近、耳マーク部MLで情報提供のあった「ヘルプマーク」

と併せた形で耳マークグッズをつけるのも良さそうだな～と考えています。微力ですが、今後も耳マークの周知に尽力したいと思います。よろしくお願いします。

◆大西美子（徳島県）



徳島県難聴者と支援者の会、通称ナシの会を平成18年に有志5人で創立しました。まず最初にしたことは、県庁受付窓口で耳マークを提示してもらったことでした。簡単にはいかず、一団体のマークを県庁受付窓口で置くことはできないと、門前払いされました。その後、ある県議の支援で耳マークの理解が得られ、県庁窓口で提示が叶うことになりました。補聴医療対策部に入るために、事情があり徳島県でありながら名古屋の難聴者協会の入会を、今は亡き元耳マーク部部長の高木さんに勧められ、また耳マーク部にも誘われて、活動しています。

今年還暦を迎え、ますますおばさん化しています。星座は牡羊座、干支は猪です。どちらも慌てん坊で、私の性格と同じで、血液型もO型で大雑把です(^_^;)

去年は、地方の新聞社から助成金を頂き、病院受付窓口で耳マークを設置できるように県医師会に配布しました。次はピアリンググループマークを県内施設に、利用案内ができるように配布したいと思います。

◆湯浅はるみ（香川）



私と耳マークの出会いは大学生の時、全難聴青年部の神戸の集いでした。初めて見た時は、耳マークは難聴者協会のマークだと思っていたものです。本当の意味を知るようになってから、聞こえないことを口頭で相手に伝えるよりも、耳マークのカードを掲示したほうがしっかりと相手に伝わることを実感するようになって、いつの間にか外出の必須アイテムになっています。

難聴者が初めて協会に来られるとき、入会は迷ったりするのに、耳マークだけはしっかりと要求してきます。先日も自分は手帳を持つほどでもないと言ってきた難聴の方も、耳マークのストラップを欲しがり注文されました。やはり自分から聞こえませんと言うのは勇気が要るだろうな、耳マークは自分を守るためのマークと認識してくれているんだなと感じました。

耳マーク啓蒙はまずは自分が示すことからスタートということで、初心に戻って一般への啓蒙に努めたいと思っています。部員として微力ですが頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

◆中筋久子（和歌山県）



私は、和歌山市に住んでいます。耳マークとの出会いは、地元協会の例会に初めて参加した時です。最初は何を示しているのかわかりませんでした。最近ではマークの意味を理解してくれる人が増えてきましたが、やはり「耳が不自由です」「筆談してください」の文字も添えた方がわかってもらいやすいと思います。一人で行動する時には、大きな耳マークの缶バッジを必ず胸につけ、病院などで重宝しています。耳マークを知ってもらうためには、やはり難聴者自身が身に着けたり、カードを見せて「聞こえにくいので筆談してください」と示していかないとだめだなあと感じ、お願いしまくっ

ています。最初は戸惑いがありますが、慣れればできるようになります。還暦を迎えたおぼさんの図々しさも助けになっているのかもしれませんが…。

趣味は花を育てること。世話して開花するまでが楽しみで、うまく咲かせたら人に差し上げ、喜んでくれる顔を見るのがまた楽しみという快樂に浸っています。本年度から和難聴会長の大役を担って、令和元年をスタートしました。皆様よろしくお願ひします。

◆宿谷辰夫（滋賀県）



隠し続けてきましたが、血液型はB型です（笑）
バスケットボールやボーリング、将棋などに取り組んできましたが、今でも継続中の趣味といえば、読書とカラオケ。司馬遼太郎の小説には結構詳しい方だと自負しておりますし、カラオケの18番は尾崎紀世彦の「また逢う日まで」です。また、吉永小百合の大ファンでもあります。

耳マークの普及、啓発に関する滋賀の取組みについては、以前に「難聴者の明日」へ寄稿しておりますので、そちらを参照願ひすれば幸いです。

今、滋賀の難聴女子の間では、ファッションナブルなカバンに直径7.5cmの大きな耳マークの缶バッジを取り付け歩くことが流行となっております。凝り固まった男性諸氏よりは、女子力によって耳マークが社会に認知されるよう、大いに期待したいところです。

◆中川良雄（堺市）

大阪北部に生息中。生まれは賑やかな大阪の長屋の下町ですが、静かな北部のほうもいいかな、と思い始めたこの頃です。

難聴者活動は長い間、席を外しておりました。ところが、最近は何かと発言する立場になり煙たがられています。

さて、煙り続きの話。焼き芋の時期がひと段落したこともあり、最近では食べるパン作りに熱心です。それも食べれないパン、フライパンで作ります。添加物を色々入れるのも楽しいですが、できるだけシンプルでウマ～なのができないかと奮闘中です。

そうそう、耳マークパンも作れますよ。すぐに食べてしまいますので皆さんに披露できないのがなんとも悲しいですね。

先日は体力が心配なので専用のコネ機も買ってしまいました。製麺もしますので重宝しそうです。とにかく、皆さんもほうれん草を練り込んだおいしい耳マークパンを作ってみましょう。

◆長田由美子（滋賀県）←耳マーク部長経験者。



滋賀県難聴者協会に入会してから37年の歳月が経ちました。聞こえないことで、日常生活に支障をきたし、家にこもっていた時に仲間存在を知りました。生き返ったように同障の友と繋がりを持ち人生が好転したことを思い出します。そして耳マークを意識するようになり耳マークグッズを常に持ち歩くようになりました。衣類につけていますと、このマークはなに？と、聞かれます。当初は知らない人が多かったのです。今は、いろいろな場所で説明付きの耳マーク表示板が置かれています。私は大きな缶バッジをバックにつけ、持ち歩いています。とても良い啓発になるのです。

昨年（平成30年）、再び耳マーク部とつながりを持つようになり、想いを新たにしています。メーリングから入ってくる皆様のご意見は、向上心にあふれ、多くの活動内容はいろいろと勉強になります。

人とのつながりがどんなに大切か、難聴であることのマイナス面が多くの方々への支援や出会いで、今は心豊かな気持ちで生活しています。出会いを作ってくださいました皆様に感謝しています。ありがとう～。

◆小倉鉄郎（大分県）



昨年(平成30年)12月に入部させていただきました。生まれと育ちは鹿児島ですが、今はおんせん県で知られる大分県の田舎で暮らしています。

血液型はA型で、星座はみずがめ座。どうぶつ占いは黒ヒョウです。

最近の個人的な関心ごとは、植木の剪定とソーイング(裁縫)で、トートバッグを自作して愛用しています。意外に思われますが、わりと女子力が高いほうです。耳マーク部でも、ハンドメイド感のある提案をしていきたいと思っています。

それと、大分県内の耳マーク普及についてですが、残念ながらまだまだ道半ばというところではあります。しかし、せっかく耳マーク

部員になりましたので、先輩諸氏の活動をお手本にしながら、大分県でも普及活動に取り組んでいきたいと思っています。

遠からず全国から観光にいられた皆さんが、駅などで困らないように耳マーク掲示活動を頑張っていきます。

◆黒田和子（愛知県）←現 耳マーク部長



耳マーク部長に就任して4年目。2018年に開催した「全難聴やまぐち大会」で耳マーク分科会を開催できたのは、耳マーク部員さんと大会実行委員会の絶大なご協力あればこそ、そして、全国から参集くださったみなさまの熱い思いがあればこそ、でした。お陰様で、地域の状況が見えてきました。参加された方たちからいただいた貴重なご意見を、今後の活動に反映させていきたいと思っています。

2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックもそうですが、身近な場を活用して、耳マークやヒアリンググループマークの一層の普及に努めましょう。誰かがやってくれるのを待つのではなく、自ら行動することが大切です。難聴者・中途失聴者の権利を守るための耳マークです。全国の会員のみなさま、普及にお力をお貸してください。活用例などがアップされている全難聴のホームページもご活用ください。

全難聴 HP

<https://www.zennancho.or.jp/>

耳マークのページ

<https://www.zennancho.or.jp/mimimark/mimimark/>

「耳マークについて」の中に「耳マーク45年の歴史」があります